

主の降誕 夜半のミサ

ルカ 2・1-14

2020. 12. 24 18 : 00 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

メリー・クリスマス。こう呼びかけ合うのがはばかりられるような状況の中で、今年のクリスマスを迎えています。

皆様はどのような思いでクリスマスをお迎えになっておられるでしょうか。

メリー・クリスマスの挨拶は、聖書に語られている、天使を通して告げられた天からのメリー・クリスマスです。

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった」(ルカ 2・11)。天使はこのように羊飼いたちに告げたということです。羊飼いたちはこのメッセージを受けて、街はずれの馬屋の中で、お告げのとおりお生まれになった救い主を見出し、その喜びを、マリアとヨセフにもたらしめたのです。

「主が仰せになったことを信じた人はなんと幸せでしょう」(ルカ 1・45)。聖母のマニフィカットの賛歌のことばは、今日ここに集まっているわたしたちに向けられています。そしてこのことばは、ここに集まっているわたしたちを越えて、コロナ禍の悲惨な状況に苦しむ世界のすべての人の中に広がっています。このような状況の中にも、希望がないわけではありません。今こそわたしたちは皆希望を必要としているのです。わたしたちは希望なしに生きることはできません。このクリスマス、この世界に希望をもたらすために来てくださった救い主のもとで、メリー・クリスマスと挨拶を交わしましょう。

クリスマスは、その初めから、希望のエッセージを受け入れた人々の祝祭であったのです。先行きの見えない、重苦しい状況の中にあって、信仰を新たにしてい、希望の灯を絶やさないようにしましょう。いつか、全ての人々が心からメリー・クリスマスの挨拶を交わし合う世界が来ますように!!